

しげい病院

重井 文博



はじめに

倉敷市は人口約47万人の県下第2の都市であり、中国地方でも広島市、岡山市について第3位にあります。街の中心部の「美観地区」は倉敷川沿いの白壁の町並みと大原美術館で有名な観光地ですが、当院は美観地区にも JR 倉敷駅から15分の徒歩圏内で、中心街近くにありながら都会の喧騒がいきりまじることもない、官庁などに囲まれた比較的閑静な場所にあります。

当院は、重井医学研究所附属病院（岡山市）と共に医療法人創和会の主要構成施設です。21世紀にふさわしい環境を整え、入院医療中心の病院として各病棟を機能分化するという方針で、平成9年から16年にかけて大幅に増改築をおこない、フロア面積的に3倍近くに広がりました。

当院は、従来の「腎疾患・透析医療」に、「リハビリテーション」「高い医療レベルの介護サービス」を加えて三本柱とし、それぞれのエキスパートとなることを目指しています。そして、透析においてもリハビ

りを重点的に投入することで、社会復帰、在宅を目指すハブホスピタルとして地域に貢献したいと考えています。また、法人内に薬用植物園や昆虫館を併設し、自然保護活動にも積極的に参加しています。

沿革

初代院長は重井博（1924～1996）で、岡山医科大学を昭和23年に卒業後、第一内科学教室で臨床と研究に打ち込んだ後、昭和30年7月に現在の病院から南に約1km離れた場所に重井内科診療所を開設しました。昭和33年5月、重井病院を現在の地に開院。昭和43年11月に岡山県初のキール透析装置を導入し、試験的透析を開始し、当時不治の病とされていた腎不全の治療に先駆的な役割を果たしました。昭和45年9月に透析センターを新築。平成10年9月に重井病院の名称を改め、「しげい病院」に。平成13年には回復期リハビリテーション病棟を開設し、現在259床のケアミックス病院として地域に貢献しています。

一方、創和会では昭和53年の法人

設立20周年を機に、岡山市に重井医学研究所、及び同附属病院を開設。腎臓病センター、肝臓病センター、近年には小児療育センターを開設し、専門性を生かして地域に貢献しています。

「地域が求める役割」を果たす病院を目指して

当院は、時代の流れに沿って「地域が求める役割」を果たすとの立場に立ち、急性期、回復期（亜急性期）、維持期という医療の流れの中で、回復期医療の選択をもって、地域に最大限貢献できるものと考えています。患者さまの病状に応じて役割や機能が明確に分かれた5つの病棟を用意しています。

透析医療のパイオニアとして

当院は県内でいち早く透析医療を開始した腎・透析の病院として、腎不全発症の予防から合併症、腎移植後のフォローまで、腎臓病の一貫した治療を目指しています。98床の透析センターは、環境に配慮した落ち着いた雰囲気の中、合併症対策を積極的に行い、予後を改善させること、そしてなによりも合併症発症の予防に努め、透析者のADL・QOLの維持・向上に力を入れています。

透析においては、脳卒中などの大きな合併症を発症しなくても、様々な要因から徐々に進行する廃用症候



施設概要	
創立	1958年5月
敷地面積	8,599㎡
建物面積	16,777㎡（8階建）
病床数	259床 一般病棟50床，障害者施設等一般病棟51床，医療療養型（透析リハビリ）病棟56床，回復期リハビリテーション病棟48床，介護療養型病棟54床
診療科目	内科，外科，腎臓・透析科，脳神経外科，放射線科，リハビリテーション科，消化器科，循環器科，呼吸器科，整形外科
認定施設	日本腎臓学会研修認定施設，日本透析医学会認定施設 総合リハビリテーション認定施設 脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅰ），運動器リハビリテーション（Ⅰ） 言語聴覚療法（Ⅰ）
透析センター	同時血液透析：98ベッド CAPD 室

群といった全身的な衰えの状況がおこります。廃用そしてその結果である介護の予防には運動と栄養の管理が不可欠な要因となります。透析者の介護予防として、透析チームとリハビリチームのジョイントのもと、「透析者さまを寝たきりにしない」「元気な透析者さまをつくる」を目指し、透析体操，フットケア，パワーリハビリテーション，通所リハビリテーションなどを積極的に行っています。さらに、栄養強化支援として、管理栄養士も積極的に参加し、透析 NST を実践しています。

更に、要介護状態となっても、可能な限り在宅での生活を安心しておくれる様に、当院に通院の有無に関わり無く、透析医療を心得た訪問スタッフによる看護とリハビリを地域に提供しています。

多彩なスタッフで総合的リハビリテーションを提供

「生活の場に近い環境を設けた病棟でのリハビリ」を中心に、理学・作業療法士，言語聴覚士，健康運動指導士，歯科衛生士，リハナース，介護福祉士など多人数かつ多彩なスタッフがチームで活動しています。また在宅での生活を支えるリハビリ

テーションの重要性は高く，通所，訪問によるリハビリも積極的に展開しています。

近年，高齢者の介護予防，転倒予防，そして自立した生活への道を開くとして，専用の運動機器を用いた「パワーリハビリテーション」が注目されていますが，県内の病院でいち早く機器を設置し（平成15年6月），利用者の QOL 向上に貢献しています。

もったいないプロジェクトで地球温暖化防止に協力

当院では，1日24時間稼働という病院の特殊な業態からも，他の企業等と比較し多くのエネルギーを消費している現状を再認識し，平成17年8月に省エネプロジェクト「もったいないプロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトは，職員全員で，まずは身近な所から電気の無駄・水の無駄を取り除き，地球温暖化防止のための CO₂削減に取り組もうというものです。政府の地球温



暖化防止国民運動である「チーム・マイナス6%」にも早くから一団体として参加（平成17年9月22日登録）しています。プロジェクトの内容および毎月の CO₂削減状況は病院ホームページで発信しており，平成18年度は平成16年度比9.97%の CO₂削減を達成しています。

自然保護活動に積極的に参加

当院8階に昭和37年開設の「倉敷昆虫館」があり，展示標本は約3,000種15,000点，その70%は岡山県内産です。ほとんどは，倉敷昆虫同好会会員を中心とした方々の約半世紀にわたる分布調査の記録標本で，もはや時代をさかのぼって手に入れたりできないものです。

一方，「市民のために素晴らしい自然の緑を残しておきたい」と，昭和39年，倉敷市内に約5ヘクタールの「重井薬用植物園」を開設。約60種類に及ぶ岡山県指定の絶滅危惧種の保存を始め，貴重な植物の種子を全国に配布するなどの活動を行なっています。

今後の課題

ハードやソフトについては現在十分な水準にあると思います。しかし

ながらそれをオペレートする医師が不足しています。腎透析医療，リハビリテーション医療，及びその周辺医療を担当する様々な診療科医師を求めています。

院長からのメッセージ

■県下で最も早くに人工透析を開始した歴史ある病院です。同じ法人内に腎臓疾患の基礎研究を主体とした「重井医学研究所」(岡山市)があります。透析患者数は260名前後で、県下で2番目に患者数の多い透析施設

です。ちなみに一番多い施設は、同じ法人内にある「重井医学研究所附属病院」(岡山市)で、透析患者数は340名前後です。

■病院の増改築は近年ほぼ完了しており、回復期医療にふさわしい快適なアメニティの療養環境が自慢です。

■回復期リハビリ病棟を県下で2番目に立ち上げ、倉敷地域でのリハビリテーションに貢献しています。近接する超急性期・高度先進医療を提供する1,116床の倉敷中央病院とはface to face の良好な連携、役割分担

がとれています。

■平成20年1月、県下で初めて「働きやすい病院」の評価・認定を受けました。女性が働きやすい病院と認定されたことは、男性医師を含めて全ての職員にとっても働きやすい病院であることが認められたものと思います。

平成20年2月受理
〒710-0051 岡山県倉敷市幸町2-30
電話：086-422-3655 FAX：086-421-1991
E-mail：shigeihp@shigei.or.jp
http://www.shigei.or.jp/shigei/